

令和元年度第4回 松戸市子ども・子育て会議録 (要旨)

1. 日時	令和2年2月18日(金) 18:30~20:30
2. 場所	議会棟3階 特別委員会室
3. 出席者	<p><委員> (50音順) 21名 安達委員、阿部委員、天田委員、石垣委員、石田委員、荻野委員、奥藤委員、神谷委員、久川委員、小松委員、坂委員、坂野委員、佐藤委員、千石委員、知久委員、奈賀委員、百田委員、文入委員、松本委員、宮下委員、山口委員</p> <p><松戸市> 子ども部長、子育て支援課、子ども家庭相談課、子どもわかもの課、保育課、幼児教育課、健康福祉会館、障害福祉課、教育企画課、指導課、事務局(子ども政策課)</p>
4. 傍聴者	3名
5. 次第	1 委嘱状交付式 2 松戸市子ども・子育て会議 (1) 保育の利用定員について《審議》 (2) 公私連携型保育所について《報告》 (3) 第1期松戸市子ども総合計画の進捗について《報告》 (4) 第2期松戸市子ども総合計画(案)について《報告》 3 その他

<要旨>

1 委嘱状交付式

○新規委員に子ども部長より委嘱状を交付。

○新規委員より挨拶

○子ども部長挨拶

2 松戸市子ども・子育て会議

○会議の成立

(事務局)

総委員数 21名、21名出席

「松戸市子ども・子育て会議条例」第6条第2項の規定により、会議の成立を報告。

○会議の公開

(事務局)

「松戸市情報公開条例第 32 条」の規定により、公開を原則として会議を開催したい。

○議事録の作成と公開

(事務局)

要約による議事録を作成し、公開をしたい。

(坂野会長)

プライバシーに関する部分に充分配慮するものとして、公開することを了承する。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

3 名の方からの傍聴の申し出あり。

(坂野会長)

入室を許可する。

(1) 保育の利用定員について《審議》

(坂野会長)

議題 1「保育の利用定員について」の審議について、担当課から説明をお願いしたい。

(保育課長)

資料 1 - 1「特定教育・保育施設の利用定員等について」、資料 1 - 2「地域型保育事業の利用定員等について」を用いて保育課長から説明を行った。

(坂野会長)

質疑応答をお願いしたい。

(知久委員)

小規模保育事業が 7 施設増え、さらに来年度も増やしていく中、3 歳児以降の受け入れが幼稚園だけでは厳しいため、社会福祉法人の保育園が定員を増やし、市と連携しながら対応している。

(坂野会長)

「特定教育・保育施設」と「地域型保育事業」については、第 2 期子ども総合計画（案）においても、重点的に取り組んでいくこととされている。今後も社会情勢や市民からの声に敏感になり、保育の質・量の両面からの充実に取り組んでいただきたい。

(2) 公私連携型保育所について《報告》

(坂野会長)

議題2「公私連携型保育所について」担当課から説明をお願いしたい。

(保育課長)

資料2「公私連携型保育所について」を用いて、保育課長から説明を行った。

(3) 第1期松戸市子ども総合計画の進捗について《報告》

(坂野会長)

議題3「第1期松戸市子ども総合計画の進捗について」各担当課から説明をお願いしたい。

(各担当課長)

資料3「第1期松戸市子ども総合計画 重点的取り組み事項に関する進捗状況」を用いて各担当課長から説明を行った。

(坂野会長)

質疑応答をお願いしたい。

(知久委員)

P.26「233 認定こども園の推進」で、「平成31年度までに23か所の幼稚園・保育所（園）等から認定こども園への転換を図ります」とあるが、市として、今後どのように取り組む方針なのか。

(保育運営担当室長)

認定こども園の推進については、第1期子ども総合計画のときに、国の方針を受け、一つの目標として掲げてきた経緯がある。現在、本市は小規模保育施設から幼稚園の預かり保育へという政策をとっており、現在積極的に認定こども園の推進は図っていない。都市部以外では、幼稚園・保育園ともに定員に空きがあり、認定こども園化が進んでいる地域もあるが、都市部の多くは国が目指す認定こども園の推進がうまくいっていない現状である。今後の認定こども園のあり方について検討する時期にきていると考えている。

(知久委員)

幼稚園の預かり保育を積極的に進めているとのことだが、社会福祉法人が幼稚園の預かり保育を連携して実施しているところもある。幼稚園と保育園のそれぞれの教育方針がうまく連携してつながっていけばよいが、そのあたりはどうか。

(幼児教育課長)

幼稚園の預かり保育については、すぐに体制が整わない所は、社会福祉法人と連携して預かり保育を行っている。保育のノウハウを社会福祉法人と一緒に構築しながら、徐々に幼稚園が独自のやり方で預かり保育を行っているよう、市が仲介しながら進めているところである。

(山口委員)

幼稚園の預かり保育は、保護者のニーズにひらきがあり、市の助成対象となるためには、預かり保育を実施するための幼稚園教諭の確保などハードルが高い。

また、障がいのあるお子さんは年々増加している。その子に対応するには幼稚園教諭を加配して対応しているが、それに対する補助が少ない。市にも協力していただけたらありがたい。

(幼児教育課長)

障害のあるお子さんについては、色々な状況があると思うが、状況に応じて対応していただければと思う。

(文入委員)

資料 3 P.22「子どもの虐待予防・対策の強化」で、「計画策定時の状況」の中に「子ども SOS カード配布」とあるが、今までにどれぐらい配布し、どの程度効果があったのか。

(子ども家庭相談課長)

子ども SOS カードは、毎年学校を経由してお子様に直接渡している。名刺サイズのカードで、いつでも相談してほしいとお知らせしており、連絡先等が書いているものである。毎年数件、本人からの電話やメール等がある。具体的な事例を紹介するのは難しいが、子ども SOS カードを握りしめて、直接窓口に来て来たというケースも聞いている。今年は高校生へ直接配布をした。ケースとしては少ないと思うが、一人でも相談機関につながるきっかけになればと思い、継続していきたい。

(神谷委員)

資料 3 の P.3 の「就学接続期保育に関する研究」について、「就学前学びのプログラム」は早い時期にできあがっているが、平成 30 年度保育所保育指針や幼稚園教育要領の改訂を受けて、保育所、幼稚園、小学校の連携は、具体的にどの程度進んでいるのか。

(幼児教育課長)

「保育の質のガイドライン」については、保育所が中心になって作成を進めたものである。幼保小連携については、今年度モデル事業として幼稚園や小学校等、近隣施設同士で情報交換をし合い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」について相互理解を進め、具体的取り組みにつなげている途中である。

(神谷委員)

今回の改訂の中心は、厚生労働省所管の保育所と文部科学省所管の幼稚園・小学校が、子どもの学びの連続性をふまえ、しっかり連携をすることがメインだと思う。先進的な市では、カリキュラムを作成し、実践プログラムも発表している。「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を意識し、子どもの将来的な非認知能力の養成に役立つような教育カリキュラムの作成を検討してほしい。

(幼児教育課長)

幼保小連携は重要であると認識している。今後他市の先進事例を参考にしながら取り組んでいきたいと思う。

(神谷委員)

ぜひともお願いしたい。

(4) 第2期松戸市子ども総合計画(案)について《報告》

(坂野会長)

議題4「第2期松戸市子ども総合計画(案)について」担当課から説明をお願いしたい。

(子ども政策課長)

資料5「第2期松戸市子ども総合計画(案)」、資料6「令和元年度第3回子ども・子育て会議での第2期松戸市子ども総合計画(案)に対する意見について」、資料7「第2期松戸市子ども総合計画(案)のパブリックコメントの実施について」、資料8「松戸の子どもたちに向けて」を用いて、子ども政策課長から説明を行った。

(坂野会長)

質疑応答をお願いしたい。

(神谷委員)

行政の計画としては、よいものができていると思う。資料5のP.38に掲載された本計画の策定の視点は、目立つところにした方がよいと思う。市民が見て、いいと思えるものになりそうなので、工夫を重ねていただくとよい。

(子ども政策課長)

概要版の策定も予定しており、そこでは分かりやすく表現をしていきたいと考えている。計画書は子ども部の若手が中心となったワーキンググループを中心に策定を進め、新しい発想でよいものができたと考えている。

(安達委員)

具体的な松戸市の取組を直接聞き、さらに勉強したいと思う。

(天田委員)

長い間、子育てにかかわる中で、昔と比べて松戸市は子育てしやすくなったと実感している。この会議で出たことをすぐ実行していただいていることを、子どもを通して感じている。

(石垣委員)

資料7のパブリックコメント9番で、「性教育」に対して書かれている。その回答で、「生命の誕生や第二性徴」とあるが、我々は性というものは互いを尊重することから性教育を行っている。松戸市はそういう活動が他と比べて少ないため、今後機会をつくっていただきたい。

(子どもわかもの課長)

子どもわかもの課で行っている「中高生と乳幼児のふれあい体験」は、思春期の子どもたちへの性教育として担っている部分がある。学生は当日の体験だけではなく、事前学習・事後学習も合わせて、学校と連携して行っている。事前学習としては、教科担当の先生方と連携し、思春期や成長のことも含めて授業をしていただいている。事後学習

としては、助産師の先生をお呼びし、身体の成長やホルモンの関係、心の動き等、今の中高生が必要な自分に対する認識や今後の心構えを分かりやすく理解できるように、専門的な視点からお話ししてもらっている。学校と連携して、もっと実施校数を増やしていきたいと考えている。

(石田委員)

私たちの意見を計画書に反映していただいた。計画書は実現性が求められるため、第2期計画でも記載したことをしっかり実現してほしい。

連携はすごく大事で、色々なところで連携会議が行われ、顔の見える関係ができていますが、幼稚園・保育園の連携は難しいと思っている。また、小規模保育施設が増える中、小規模保育施設から施設が変わるときに、子どもたちが戸惑っていると聞く。新しい環境に通うときは、大人もドキドキするが、子どもはもっと不安を抱えていると思うので、しっかり連携していただきたい。

(荻野委員)

資料3のP.20「165 障害児相談支援等」で、相談員がついている児童がまだ40%程度ということで、相談員がついているとないとでは、支援に関する情報量等に差が出ていると思う。今後増えていくことを期待している。

「166 児童発達支援」、「167 放課後等デイサービス（障害児通所支援）」において、重症心身障害児・医療的ケア児に対する事業所はまだ少ないように思う。私が10時から14時まで見ている子どもは、朝10時半に水分補給、お昼ごはん、13時半に水分補給、その間にも吸引、吸入を繰り返しており、保護者の負担を思うと、児童発達支援がもっと増えて、これが週に何回も利用できたらと思う。

昨年12月に手話言語条例が施行された。放課後 KIDS ルーム 6校で試験的に手話の勉強をされていると聞いた。今後多くの子どもたちが体験できる機会があればよいと思う。

(障害福祉課長)

相談員のついている子どもは少ないと認識しているが、親の考え方もあるため、日々説得をしながら、相談員をつけた計画数を上げていけるよう努力している。

医療的ケア児については、家庭の方のレスパイトが必要だと考えている。そのためには、昨年度から従事者を育てるための補助をしており、スキルを上げていくための勉強会を行っている。平成28年の11月から医療的ケア児の推進会議として協議会を設置し、千葉県内でもいち早く取り組みを進めており、今後もより先進的に進めていけるようにしていきたい。

手話については、子ども部子育て支援課から放課後 KIDS ルームの場所を借りて、モデル的に6校で行っている。今後新年度に向けて、より一層増やし、随時広めていきたいと思う。

(奥藤委員)

第2期松戸市子ども総合計画は、素晴らしいと思っている。子どもたちのために、大人たちがこれだけ色々応援しているというのが詰まっているので、様々な人達と意見を交わしながら、ますますよいものになってほしいと応援している。

(久川委員)

私は外に働きに出ず、子育てに専念したいと思っている。ここ2、3年で幼稚園に預けていながらも、外に働きに

出ている保護者が増えた。そうした中で、子どもに目をかけたいと思っている母親たちが、声を上げられず、肩身の狭い思いをしている。子育てに専念したい人たちも胸を張って子育てできるように、そのような母親たちへのサポートもあるとよいと感じた。

資料 5 の P.70 に、こどもモニターについて活動の回数を増やしていく目標があるが、活動の回数を増やすことだけが、子どもの意見表明の機会を増やすことになるのか疑問がある。活動の回数が多いために、子どもが参加したくても、親の都合で参加できない子どもが出てしまうのであれば、回数を増やさなくても、より多くのお子さんが入れる仕組みを考えるほうがよいのではないか。

(子どもわかもの課長)

回数については、少ないと実際に来られたり、来られなかったりすることがあるため、チャンスを増やすために実施し、お休みしても継続できるように子どもにフォローしている。また、基本的には子どもが主体の活動であるため、保護者の付き添いは必要ない活動にしている。

(小松委員)

パブリックコメント 13 番で、子どもたちを取り巻く環境はますます不安な要素が多くなっていると感じている。安心安全のまちづくりにおいては、これからは質だと思う。子どもたちに接する他人が、いかに安心して対応できるかが必要だと思う。先日痛ましい事故もあったので、松戸市においても、悲惨な事故が起きないように願っている。

行政の縦割りに関する話もあったが、幼稚園、保育所（園）、小学校との連携を推進することについて、もう少し具体的な内容を考えていただきたい。

(坂委員)

子ども会にいると、どうしても自分の地域しか分からない。子ども会は、力を持っているところや存続が危ぶまれるところなど、バラつきがある。そういった力のバランスを調整するため、補助できる、支援できるものがあればよい。NPO 法人の方と知り合って話してみると、顔や活動について分からないことがあり、支援者同士のネットワークをうまくつづけていきたいと思っている。施策を通じて、そういうのも広報できたらよいと思う。

先程こどもモニターの話もあったが、子ども会も同じで、保護者が役員をやられるので子どもが加入したくても加入しないケースが増えている。資料 5 の P.18 に女性の就業率が載っているが、現在 60%を越えている共働き家庭について、組織的に何か支援ができればと感じている。

(佐藤委員)

ママパパ学級の内容が年々充実しているのを常々感じている。ママパパ学級をさらに充実していくことで、虐待防止にもつながっていくと思う。出産後も大事だが、出産前のお父さん、お母さんの意識改革を今後も続けてほしい。

この計画を我々だけではなくて、子育てに関わるあらゆる方がしっかり読み込むことで、松戸市の子育てがもっと充実していくと思うので、幅広く周知していただきたい。

(千石委員)

資料 5 の P.78「95 日本語教室」の事業内容について、表記を統一した方がよい。

資料 5 の P.78「94 外国人の子どもへの学習支援」について、昨年 6 月 28 日に日本語教育推進法が施

行された。できるならば、日本語教育推進法ができたということを行入らせていただくと、行政側にそういう視点もあると思ってもらえるのではないかと。

昔から幼稚園と保育所は様々な課題があり、今に至っている。また、保護者の中には、子どもを長く預けたくないという思いで、幼稚園に預けていた人もいるということを含んであげてほしい。支援のあり方について、一方的にならないように考えていく必要がある。

3 その他

○新型コロナウイルス感染症について

(子ども政策課長)

事態収束までの間、市主催のイベントは中止することが決定した。直近では、2月22日(土)の「子どもの未来応援講演会」と「障害者権利擁護講演会」の開催を中止し、また「子育てフェスティバル」については、現在調整中である。

○事務連絡

(事務局)

本日の議題に関して発言できなかった意見、その他ご要望などは、ご意見票にご記入いただき、2月25日(火)までに、FAX、メール、郵便等にて事務局まで提出をお願いしたい。

資料8「松戸の子どもたちに向けて」のメッセージも、同じく2月25日(火)までに事務局までお願いしたい。

○次回の会議の開催

(事務局)

次回の会議については7月の開催を予定している。